

教材教具名 風鈴の制作

教科(美術)

教材教具写真



教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい 短冊の部分をデザインすることにより、涼感を表現する技法を習得すると同時に、風鈴の音色を楽しむ。
風鈴を吊す紐にビーズなどを通して装飾することにより、指先の機能を向上させる。
- 2 発達段階 先ず、学年全体で日本古来より伝承されている風鈴で涼をとる文化を学習し、併せて涼感を感じる爽やかな色づかいについて学習する。以後、学級に分かれて各生徒の実態に応じ、担任による個別指導を行う。
- 3 使い方(作り方)
 - ・金属を叩くことにより高い涼やかな音色が出ることを確認する。
 - ・短冊に冷・寒色系の色を使って表現することで爽やかなイメージを持たせる。
 - ・発達段階に応じて、筆で描く、スパッタリング、エアブラシ、キラキラテープを貼るなど様々な技法で表現する。
 - ・出来上がった作品をベランダ等に吊し、吹く風に揺らぐ短冊を眺めて風鈴の音を楽しむ。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)

出来上がった作品を廊下の天井に吊しておく、外からの風で、チリン、チリンと涼やかな音を立てる。音が出るたびに自分が作った物を確認していた。他の生徒のものを見て楽しんでいた。風がないときは短冊を手で揺らし音を楽しんでいた。

夏場の教材として実用的であると思う。音を出す金属部もホームセンターなどで安価に売られている建設用資材で構成しているので、材料の入手も簡単で手軽に制作できる。制作する場合は、折角、生徒が作った短冊部が屋外に晒されるので、汚損や損傷するのを防ぐためパウチした方がよいだろう。